

第 61 回横須賀市文化振興審議会 議事概要【確定版】

日 時：平成 27 年 10 月 26 日（月）14:00～15:45

場 所：横須賀市役所本庁舎 301 会議室

出席者：秋岡委員、崎山委員、西堀委員、蛭田委員、廣瀬委員、藤井委員、
山本委員、吉田委員、若江委員

欠席者：なし

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 小澤課長、松本主査、種市

-
- ・事務局より、傍聴者なしとの報告があった。
 - ・事務局より、定足数についての報告があり、9名の委員全員が出席しており、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
 - ・規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行した。

次第 1 平成 26 年度文化振興基本計画の進行管理について

事務局から資料 1 により説明を行った。

○質疑応答

委 員： 資料 1 の P. 37 に「Ⅱつたえるー 2 地域の身近な歴史や文化の継承」とある。文化振興基本計画の改訂の際に、新しく取り入れた項目であるが、その際に取り組み内容として具体的にイメージしていたものは、同ページの中段にある「くりはま歴史絵本の発行」のような、それぞれの地域が核となって、催し物や刊行物の発行を行うというものであった。例えば、各コミュニティセンターで地域史の講座等を開催して古い地図を書き起こす、などの取り組みがふさわしいと考えていたが、「Ⅱつたえるー 2 地域の身近な歴史や文化の継承」に記載された取り組み内容をみると、本来、ここに記載されるべき各地域の「小さな歴史」ではなく、市全体を捉えた「大きな歴史」が多く記載されている。「小さな歴史」に関する事業が少なかったのであろうと考えていたが、本日の資料として配布された「広報よこすか」にはコミュニティセンターで散発的に開催されている各地域の歴史・文化に関する取り組みが記載されており、それがこの文化振興基本計画進行管理表の中には取り上げられていない。まずは、各コミュニティセンターを核とした取り組みについて、散発的ではなく連携して実施するとともに、現在、行われている取り組みをこの文化振興基本計画進行管理結果報告書にきちんと記載すべきである。

- 事務局：文化振興基本計画の進行管理は、文化振興基本計画に記載された「主な取り組み例」を基に行っている。先ほど、委員のご意見にあった各コミュニティセンターでの取り組みは、資料1「文化振興基本計画進行管理結果報告書」のP.23「Iはぐくむー2生涯学習の機会の提供」で取り上げている。各コミュニティセンターでの取り組みについては、「Iはぐくむー2生涯学習の機会の提供」、「IIつたえるー2地域の身近な歴史や文化の継承」の両方にかかるものであるが、文化振興基本計画の進行管理を行う中では、「Iはぐくむー2生涯学習の機会の提供」に分類して記載しており、その点をご了承頂きたい。
- 委員：資料1「文化振興基本計画進行管理結果報告書」のP.59「姉妹都市との交換学生数」について、この留学生は高校生であるか。また、ブレスト市の交換留学生は横須賀に来ているのか。
- 事務局：横須賀市立総合高校がブレスト市を含めた姉妹都市と交換留学を行っている。
- 委員：では、資料1「文化振興基本計画進行管理結果報告書」のP.54「市立高校の生徒と海外高校生との交流人数」とあるが、これはP.59「姉妹都市との交換学生数」の人数も含まれているのか。
- 事務局：含まれている。P.54「市立高校の生徒と海外高校生との交流人数」は、姉妹都市以外の交流人数も合わせたものである。
- 委員：「文化振興の指標」について、矢印で「向上」「維持」が示されているが、この「向上」「維持」はどのような基準で判断しているのか。文化は数値では測ることが難しく、数値のみを基準として判断していないということは理解しているが、例えばP.53「コミュニティセンターの利用率」では、基準時「55.1%」が平成26年度「54.6%」と下降しているが、矢印は「向上」となっている。また、P.60「日米親善ベース歴史ツアーの参加者数」では、考え方として「日米親善ベース歴史ツアーの参加者数により、人々の交流の度合いを測ります」とあるが、基準時「467人」が平成26年度「405人」と下降しているにも関わらず、矢印は「向上」となっている。
- 事務局：「今後の方向性」は、文化振興基本計画の策定時における今後の事業の方向性を示したものであり、年度ごとの結果を、その都度、判断しているものではない。しかしながら、年度ごとの結果を見たときに、計画策定時に定めた「今後の方向性」の見直しが必要になることもあり得る。文化は数値のみでは測ることができないという考え方で進行管理を行っており、結果として表れた数値のみで、「今後の方向性」を判断することはできず、また、基準時の数値との差がどの程度であれば、「今後の方向性」を見直す必要があるかという点については判断が難しい。従って、まずは数値結果のみを本審議会に提示させて頂き、委員の皆さまのご意見を伺いたいと考えている。
- 委員：今の事務局の説明からすると、P.60「よこすかカレーフェスティバルの来場者数」については、考え方に「よこすかカレーフェスティ

バルの来場者数により」とあるが、これは「よこすかカレーフェスティバルの来場者数等により」とした方が、より正確な表現である。

事務局： 委員のご意見の通りである。

委員： 先ほど、委員からご意見のあった P.59「姉妹都市との交換留学生数」について、私はこの「姉妹都市との交換留学生」のOBであるが、その経験を踏まえて意見を述べたい。「今後の方向性」として「向上」としているが、平成 26 年度の実績である「4 市合計派遣 8 人、受け入れ 7 人」くらいの人数が限界であると考えます。これ以上人数が多くなると、派遣については、日本人同士で固まってしまうなど、留学の効果が得られにくくなるし、また受け入れについても 7 家庭以上のホームステイ先を探すのは非常に難しい。従って「今後の方向性」については「向上」ではなく、「維持」がよいのではないかと。

事務局： 交換留学生については、国際交流課が所管している。所管課としては、今後、交換留学生を増やしたいと考えており、「今後の方向性」を「向上」とした。しかしながら、委員のご意見のとおり、実際においてはこれ以上の増員は難しいという面もあるかと思う。この点については、今後、検討していきたい。

委員： P.51「市民が行う文化事業への共催・後援などの実施件数」について、平成 26 年の実績として「共催 6 件・後援 35 件」とある。この実施件数はとても少ないと感じている。実際に横須賀市に対して共催、後援の依頼をしたことがあるが、手続きが煩雑で、かつ、事業実施後に詳細な実施報告を求められた。この手続きをもっと簡略化すれば、共催・後援の実施件数を増やすことができるのではないかと。また、P.52「横須賀美術館美術展観覧者数」について、「展覧会の観覧者数から優れた芸術に親しむ機会の充実度を測ります」とある。先ほどから各委員、事務局のご意見にあったとおり、文化は数字だけで測ることはできないが、ここに書かれている文字だけを読むと、「観覧者数が多ければ、良い展覧会である」と誤解を招く恐れがある。その点で表現をもう少し工夫した方がよいのではないかと。

事務局： 「後援：横須賀市」と名前が出る以上、一定の書類の精査は必要であると考えますが、事務手続きについてはなるべく簡略化できるようにしていきたい。

委員： 特に実施報告について、事務の負担が大きい。

委員： 委員から美術館についてのご意見があったが、P.55「子どもを対象とした美術館ワークショップなどの開催回数」が減っている。これは美術館・博物館に館長が置かれていないことが要因であると考えます。両館は教育委員会で運営を行っているが、今後の文化振興を推進する上で、館長が指導力を発揮することが必要であろう。展示も大事であるが、子どもたちに対して働きかけをし、はぐくみ、育てていくことが大事である。

事務局： 委員のご意見にあったとおり、美術館・博物館には専任の館長がおらず、ご意見は教育委員会に伝えたい。美術館・博物館におい

では、ともに子どもたちに来館してもらう取り組み行っており、授業や学校行事の一環として、展示鑑賞の機会を設けている。また、芸術劇場では市内全小学校の5年生を対象に芸術鑑賞会を実施し、クラシック公演を鑑賞する取り組みを行っている。

委員：市外から観光客を呼び込む取り組みを行っているが、その次に何を求めているのかが見えない。現在、横須賀市は人口が減少している。観光で一時的に横須賀を訪れてもらうだけでなく、定住につながる取り組みについて、文化の切り口でどのように考えているのか伺いたい。また、P.31に記載のある「地域活動サポーター」がどのような活動を行っているか伺いたい。

横須賀市でも高齢化が進んでおり、学校の教職員などの専門的な知識を持った方がリタイアされていると思う。そのような専門職の方を、美術館や図書館、博物館などの専門的な知識が必要な所で活用されてはどうか。横須賀市の文化政策は、専門的な知識をあまり必要としない薄く横に広がった文化政策であるとの印象を持っている。もちろんそのような取り組みも必要であるが、専門性のある深い文化も必要である。学校の教職員、民間企業のOBなど専門職の方を活用し、文化の振興を進めてはどうか。

事務局：市としては、人口が減っている状況の中で、人を集めることを意識した取り組みを行っており、定住促進のキャンペーンなども実施している。委員のご意見にあった今後の方向性としては、まずは、現在、横須賀に住んでいる人がこれからも住み続けたいと思ってもらえるように取り組みを進めたい。その中で文化が果たす役割は大きいと考えている。

専門職の配置については、今後の課題として考えて行きたい。

委員：分野は違うが、人口や経済の問題も文化振興基本計画のような文化政策に関する冊子に記載した方がよい。文化ばかりに焦点をあてたものでは、読む人に伝わりにくい。人口や経済の問題に触れながら、文化振興の考え方を示したほうがよい。

委員：平成26年度の文化振興基本計画の進行管理結果報告は、この資料で行うのか。

事務局：この資料で報告する。

委員：資料1のP.51以降の「文化振興の指標」の「今後の方向性」について、この資料に記載されたような表記だと、平成26年度の結果について「向上」、「維持」を表しているような誤解を生じる。この資料の重要なポイントは、平成26年度の結果を見て、今後これを「向上」とするのか、「維持」とするのかであり、この判断は非常に難しい。先ほどの事務局の説明があれば理解できるが、この表だけを見た場合、分かりにくい。

事務局：コメントを付けるなどして、分かりやすい表現に改めたい。また、平成26年度の結果をどう判断するかについては、委員のご意見のとおり、非常に難しいと考える。判断結果を記載するかどうかも含め、事務局にて検討したい。

- 委員： 進行管理表に「S～C」の評価が記載されているが、これは確定のものであるか。
- 事務局： 確定ではない。所管課が評価し、事務局にて追認したものである。しかしながら、委員の皆さまから評価について、ご意見があれば、事務局にて所管課と調整したい。
- 委員： P.47の10,000mプロムナードの紹介について「B」と評価されているが、「A」でよいのではないか。リーフレットの配布からホームページでの紹介に変更したとのことであるが、ホームページで紹介することにより、見てくれる人が増えるとともに、経費の削減にもつながる。
- 委員： 委員の意見について、他の委員のご意見を伺いたい。
- 委員： 市のホームページは、ヒット数はカウントとしているか。
- 事務局： カウントしている。
- 委員： では、ヒット数で評価を判断してもよいのではないか。リーフレットは配布部数で測ることができるが、ホームページはヒット数でしか測ることができない。
- 事務局： ページごとにカウントしているかどうかを確認したい。
- 委員： 「10,000mプロムナード整備事業」そのものが見直しの時期にきていると考える。この「10,000mプロムナード」とされている道中に「走水低砲台」という砲台跡があり、現在、整備が進められている。その他にも「10,000mプロムナード」の中で、事業開始当初から様々な変更が生じており、この事業の全体を見直すことが必要であると考え。現状としては「B」という評価でもいたしかたない。天気がよいと猿島、房総半島が見え、横須賀らしい風景を眺めながら歩くことができるので、ホームページを見て、このプロムナードを歩けば、楽しいと思う。
- 委員： 「S～C」という評価は成績を付けられている印象がある。グループ分けをすることが大事であって、例えば「I～IV」でもよいのではないか。
- 事務局： 現状の計画期間の間は、「S～C」とし、委員のご意見は、計画の見直しの際に参考にさせて頂きたい。委員のご意見については、担当課に伝えて調整したい。
- 委員： 文化振興基本計画は、横須賀市における分野別の計画の一つであるが、他の分野別計画との間にどうしても誤差が生じてしまっている。それら他の分野別計画との整合性を取って欲しい。
- 事務局： 文化振興基本計画の改訂時に、文化振興審議会委員の皆さまから、横須賀市が策定している他の計画との整合性を取るようにとのご意見を頂いており、文化振興基本計画は、整合性をとるよう策定している。しかしながら、他の分野別計画の策定期間により、誤差が生じてしまっていることは事実である。
- 委員： 策定時には整合性が取れていても、時間の経過とともに誤差が生じてしまう。
- 事務局： 文化振興基本計画は8年間を計画期間としている。文化振興基本計画に記載されている事業のうち、今後、廃止されるものもあると思われる。

次第2 横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念事業について

事務局から資料2により説明を行った。

○質疑応答

委員：横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念事業については、平成27年3月に開催された第60回文化振興審議会にて、補正予算を組んで実施すると伺っていたが、実際に着々と進んでいるようである。

委員：資料2の事業趣旨に「横須賀製鉄所と同じフランス人技術者が設計した富岡製糸場のある富岡市との友好を深めます」とある。横須賀製鉄所は明治元年に操業を始めたフランスの技術支援の一つであるが、同様のものとして生野鉱山がある。元々は生野銀山と呼ばれていたものであるが、フランスからの技術支援を得て近代化した。横須賀製鉄所はこの生野鉱山とも深いかかわりがある。例えば、生野鉱山のボイラーは横須賀製鉄所が設計したものであり、また、約800種もの鉱山の採掘機械を横須賀製鉄所が受注し、横須賀製鉄所の技師が、その機械の設置のために生野鉱山に出向いている。このような深いかかわりから、生野鉱山のある兵庫県朝来市と友好を深めることも考えられる。また横須賀製鉄所は、横浜製鉄所との関わりも深く、横浜製鉄所は横須賀製鉄所の横浜工場のようなものであった。横浜とも友好を深めることができれば、相互に利益があるのではないか。

事務局：委員のご意見の通り、横須賀市とゆかりのある市町村はたくさんある。市としては、今後、どこの市町村と友好都市提携を結ぶのかということについては検討していきたいが、まずは、11月に友好都市提携を結ぶ富岡市と交流を深めたい。

委員：湧水「走水の水」ペットボトルはどこで買うことができるのか。

事務局：市役所から一番近いところだと、市役所1階の売店で売っている。

委員：YYポートでも売っている。

事務局：上下水道局が1万本限定で製造した。市外というよりは、市内を中心に限定的に販売しており、売り切れしだい終了となる。

委員：ソレイユの丘でも売っている。YYポートは品切れに近いが、2ケース購入した。走水水源地に行けば「ヴェルニーの水」として、無料で汲むことができる。先日、走水水源地を訪れてみたが、市民の方がひっきりなしに水を汲みに来ていた。

委員：パレードについて、横須賀でこのような大きな催しが開催されることに驚いた。海上自衛隊の観艦式との連携、各コミュニティセンターでの取り組み、軍港めぐりとのタイアップなども素晴らしいものである。このような取り組みは来年度以降も継続するのか。

事務局：大きなイベントは今年度限りの可能性もあるが、各コミュニティセンターでの取り組みや、ドライドック見学ツアーについては、今後も継続したい。

- 委員：横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念事業の中で、記念艦三笠についての記述が見当たらないが、記念艦三笠では何か横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念の取り組みは行われているのか。
- 事務局：記念艦三笠は本市の大切な近代歴史遺産である。市の主催、共催事業としては実施されていないが、横須賀製鉄所を取り上げた特別展が開催されており、横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念事業にご協力を頂いている。
- 委員：記念艦三笠では、独自の取り組みとして、横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念・日本海海戦 110 周年記念として、展示が行われている。
- 委員：ドライドック見学ツアーでは、ドックの底まで降りることができるのか。
- 事務局：ドックの底までは降りることができない。
- 委員：横須賀美術館でも横須賀製鉄所創設 150 周年を記念した企画展が行われている。このように市全体として、政策的に取り組むことはよいことである。
- 委員：海上自衛隊観艦式と連携した取り組みは非常によい。昨今、若者の間でもいわゆるミリタリーものの愛好者が増えており、観艦式や、このたび米海軍横須賀基地に配備されたロナルド・レーガンの一般公開を見たという知人がいた。海と船は、ある意味横須賀を象徴するものであり、若者への周知という点では、大変よい。
- 委員：横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念事業について、これだけの事業を行ったことには驚いているが、横須賀製鉄所に焦点をあてすぎている感がある。横須賀製鉄所を中心として、もっと「縦」と「横」に広げてほしい。「横」の広がりについては、富岡市との友好都市提携などがあるが、特に「縦」については、横須賀製鉄所から始まって、海軍のまち、軍港都市として発展していった歴史にもっと深く触れて欲しい。
- 事務局：横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念事業を実施するに当たり、昨年度、市民アンケートを実施した。そのアンケートの結果、横須賀製鉄所の認知度は約 50%であった。まずは、横須賀製鉄所の果たした役割・意義を若い世代も含めて伝えていくことを目的に横須賀製鉄所(造船所)創設 150 周年記念事業を実施したが、委員のご意見のとおり、横須賀は、横須賀製鉄所に始まり、軍港都市として発展したという「縦」のつながりを周知することも大きな使命であると考えている。
- 委員：以前にも申し上げたことがあるが、ドライドックについては、良く知られているが、横須賀製鉄所そのものについては、あまり知られていない。
- 事務局：ドライドックは米海軍基地の中にあり、なかなか行くことができない。横須賀製鉄所に関するもので、普段、見ることができるものはヴェルニー記念館にあるスチームハンマーくらいである。今年度は、米海軍の協力もあり、市民の方がドライドックを見学する機会を多く頂いたが、今後も米海軍の協力を得て、引き続き市民の方が見学することができれば、横須賀製鉄所を周知するよい機会となる。

- 委員：よく、八幡製鉄所と横須賀製鉄所の違いについての質問を受ける。
- 事務局：委員がよくお話しされていることであるが、横須賀製鉄所の「製鉄所」は、現在の鉄を造る場所という意味の「製鉄所」とは異なるということを知ってもらう必要がある。それを周知すべく、様々な取り組みを行っているが、認識のずれがある。
- 委員：11月13日(金)～22日(日)に開催される「小栗上野介と横須賀製鉄所」というパネル展では、委員のご意見にあった「縦」軸に焦点を当てた展示を行っている。横須賀の市街地は関東大震災の前後で大きく変わるが、商店街の古い地図や、同じ場所の昔と現在の写真の展示を行い、横須賀製鉄所とまちの発展の関わりを見てもらうようなものになっている。
- 委員：横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念事業を見ると、どちらかというと、市で企画して実施しているものが多いが、市民主導のものが少ないように感じる。
- 事務局：市と市民が一体となって盛り上げていくことが一番よい形であるが、委員のご意見のとおり、市民主導の企画が少ないのは事実である。しかしながら、商店街や文化団体などが横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念として実施している企画もある。
- 委員：委員の皆さまからは意見が出尽くしたようである。事前に事務局から横須賀製鉄所(造船所)150周年記念事業として開催された「横須賀パレード」の当日の様子を撮影した映像を紹介したいとの申し出があったので、委員の皆さまにご覧頂きたい。

※事務局より、横須賀製鉄所(造船所)創設150周年記念として開催された横須賀パレード当日の映像が紹介された。

3 その他

事務局から、次回の文化振興審議会については、3月の開催を予定しており、おって、日程の調整をしたい旨の連絡があった。

その他、特に質問・ご意見等はなく、審議会を終了した。